

やりたいことをやれる幸せ

佐藤 しのぶ
九州工業大学・准教授

＜仕事の内容とやりがい＞

高精度ながんの早期診断が、どこでもできるようなシステムの開発をめざし、がんを診断するためのDNA結合試薬や検出のためのチップ開発を目指しています。私の父のかかりつけ医(町の診療所)の見立てはすごく、食道がん、胃がん、大腸がんを早期で発見してくれました。いずれも早期診断だったので、父は内視鏡手術での1週間弱の入院で退院し、予後も良好です。このような医師が近くにいない場合でも、がんの早期診断を可能にするシステムを世に広めたいと思っています。

＜進路決定のきっかけ＞

高校生だった1995年に北海道大学で先天性免疫不全症のアデノシンデアミナーゼ(ADA)欠損症の遺伝子治療が行われるというニュースを見ました。当時、医療は遺伝子から治療する時代になったのか、と衝撃を受け、一気に遺伝子に関する興味を持ちました。その後、進路指導室で遺伝子に関する研究を行っている大学、研究室を調べ、遺伝子に関する研究を行っている高木誠先生・竹中繁織先生のいた九州大学工学部応用物質化学科へ入学しました。

会社員の夫と一緒に、3歳、5歳の子を育てています。夫婦ともにフルタイム勤務なので、食器洗い乾燥機、ドラム式洗濯機、ロボット掃除機と家電の力を借りながら、家事、育児の夫婦完全分担で家庭運営しています。仕事はお互いに出張が多いので、お互いの都合を考慮しながら予定を立てています。子供たち自身が良くわからないうちから両親が不在でもおじいちゃん、おばあちゃんのお家にお泊りできるようにしていたので、祖父母の協力も得ながら仕事と家庭のバランスをとっています。

高校生で理系を選択すると、まず理科の選択に迷うと思います。私は、遺伝子に興味がありましたが、理科は化学必修、物理選択で生物は選択しませんでした。生物は大学で専門書の勉強で最新の情報を学びました。高校で物理を選択すると、当時は入試で受けられる学科が多く、大学・学科の選択肢が広がりました。また、物理化学は大学化学分野では必須の項目であり、物理の選択でよかったと思いました。生物系の研究がしたい場合でも物理の選択をしておくことをお勧めします。

＜仕事と家庭のバランス＞

＜進路選択に対してのメッセージ＞

＜プロフィール＞



福岡県立田川高等学校→九州大学工学部応用物質化学科応化分子教室→九州大学工学部化学システム工学専攻博士課程修了(日本学術振興会特別研究員DC1, 博士(工学)取得)→日本学術振興会特別研究員・PD→九州工業大学バイオマイクロセンシング技術研究センター助教→九州工業大学工学研究院物質工学研究系助教(結婚)→九州工業大学工学研究院物質工学研究系准教授<第一子出産><第二子出産>→現在に至る